

FutureNet MA-E300シリーズ

ウェブユーザーインターフェース操作マニュアル

Ver. 1.2.0



目次

はじめに	3
第1章 概要	5
1.1. 基本画面構成	6
1.2. WebUI へのアクセス	7
第2章 インターフェース	8
2.1. インターフェース設定	9
第3章 通信モジュール	11
3.1. 通信モジュール設定	12
第4章 PPPoE	17
4.1. PPPoE 設定	18
第5章 フィルタ	20
5.1. フィルタ設定	21
第6章 バーチャルサーバ	26
6.1. バーチャルサーバ設定	27
第7章 シリアル変換	32
7.1. シリアル変換設定	33
第8章 DHCP	35
8.1. DHCP 設定	36
第9章 NTP	37
9.1. NTP 設定	38
第10章 WarpLink	40
10.1. WarpLink 設定	41
第11章 シスログ	42
11.1. シスログ表示	43
第12章 ファームアップデート	44
12.1. ファームアップデート	45
第13章 本装置設定情報	48
13.1. 設定の保存・復帰・初期化	49
第14章 停止・再起動	51
14.1. 停止・再起動設定	52
第15章 日付・時刻	53
15.1. 日付・時刻設定	54
第16章 本装置設定	55
16.1. 本装置設定	56

はじめに

このたびは本製品をご購入いただきまして、誠にありがとうございます。

本書には、本製品を安全に使用していただくための重要な情報が記載されています。ご使用前に本書をよくお読みになり、正しくお使いいただけますようお願い致します。

特に、本製品に添付されている「安全にお使いいただくために」をよく読み、理解されたうえで本製品をご使用ください。

また、本書は本製品の使用中、いつでも参照できるように大切に保管してください。

◆ ご注意

1. 本書の内容の一部または全部を無断で転用、転載しないようお願いいたします。
2. 本書の内容および製品仕様、外観は、改良のため予告なく変更することがあります。
3. 本書の作成にあたっては万全を期しておりますが、本書の内容の誤りや省略に対して、また本書の適用の結果生じた間接損害を含め、いかなる損害についても責任を負いかねますのでご了承ください。
4. 製品の保証に関する規定については製品添付の製品保証書をご覧ください。
5. 本製品にて提供されるファームウェアおよび本製品用として弊社より提供される更新用ファームウェアを、本製品に組み込んで使用する以外の方法で使用することは一切許可しておりません。

◆ セキュリティの確保について

パスワードを設定しない、もしくはデフォルトパスワードを使用する場合、ネットワーク上の誰からでも本装置の設定を行うことができます。

セキュリティの面からは非常に危険なため、ユニークなパスワードを設定することを強く推奨します。

◆ **最新情報の入手について**

弊社ホームページにて、製品の最新ファームウェア・マニュアル・製品情報を掲載しています。

下記の FutureNet サポートページから、該当する製品名をクリックしてください。

FutureNet サポートページ

<http://www.centurysys.co.jp/support/>

また開発者向け情報も掲載しておりますので、是非ご覧ください。

開発者向け情報提供サイト MA-E/SA Developers' Wiki

<http://ma-tech.centurysys.jp/doku.php>

◆ **商標について**

- 「FutureNet」はセンチュリー・システムズ株式会社の登録商標です。
- Oracle と Java は、Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の米国およびその他の国における登録商標です。
- その他文中の商品名、会社名は、各社の商標または登録商標です。

第 1 章

概要

1.1. 基本画面構成・動作環境

◆ 基本画面構成



画面は、左のメニュー部と右の設定画面部に分かれます。

選択したメニューは色が付きます。

◆ 動作環境

本WebUIは、JavaScriptを使用しています。ご利用のウェブブラウザにおいて、JavaScript機能を有効にしてください。

動作確認に使用した OS とウェブブラウザは以下の通りです。

Windows 7: Internet Explorer 10

Windows 7: Chrome 38

1.2. WebUI へのアクセス

◆ WebUI へのアクセス

ブラウザを起動します。

アドレスバーに

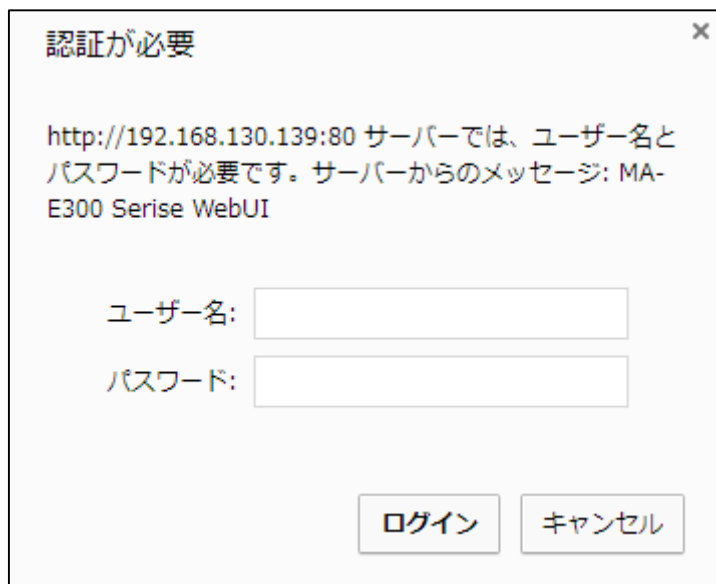
[http://\(MA-E300シリーズのIPアドレス/](http://(MA-E300シリーズのIPアドレス/))

を入力しアクセスしてください。

なお、MA-E300シリーズの初期状態のIPアドレスは以下の通りです。

インターフェース名	IPアドレス
ETHER 0 (eth0)	192.168.253.253
ETHER 1 (eth1)	192.168.254.254

アクセスするとログイン画面が表示されます。(表示される画面は、お使いのブラウザによって異なります)



初期アカウントは以下の通りです。

アカウント名	パスワード
admin	admin

第2章

インターフェース

第2章 インターフェース

2.1 インターフェース設定

◆ 個別インターフェース設定

- イーサネットインターフェース (ETHER0/eth0) / イーサネットインターフェース (ETHER1/eth1)
標準搭載されるイーサネットポートの IP アドレスを設定します。

IP アドレス取得方法を「DHCP から取得」にした場合は IP アドレス、ネットマスクは空欄にします。

イーサネットインターフェース(ETHER0/eth0)	
IPアドレス取得方法	<input checked="" type="radio"/> 手動設定 <input type="radio"/> DHCPから取得
IP アドレス	<input type="text" value="192.168.253.253"/>
ネットマスク	<input type="text" value="255.255.255.0"/>

イーサネットインターフェース(ETHER1/eth1)	
IPアドレス取得方法	<input checked="" type="radio"/> 手動設定 <input type="radio"/> DHCPから取得
IP アドレス	<input type="text" value="192.168.254.254"/>
ネットマスク	<input type="text" value="255.255.255.0"/>

- ブリッジインターフェース (br0)
ブリッジ機能を利用する際に生成されるブリッジインターフェースの IP アドレスを設定します。
IP アドレス取得方法を「DHCP から取得」にした場合は IP アドレス、ネットマスクは空欄にします。

ブリッジインターフェース(br0)	
IPアドレス取得方法	<input checked="" type="radio"/> 手動設定 <input type="radio"/> DHCPから取得
IP アドレス	<input type="text" value="IPアドレスを入力"/>
ネットマスク	<input type="text" value="ネットマスクを入力"/>

※「ブリッジインターフェース (br0)」は「共通インターフェース設定」でブリッジ「使用する」を選択した場合に表示されます。

第2章 インターフェース

2.1 インターフェース設定

◆ 共通インターフェース設定

デフォルトゲートウェイ、DNS サーバを設定します。ブリッジ「使用する」を選択すると、イーサネットインターフェース (ETHER0/eth0) / イーサネットインターフェース (ETHER1/eth1) をブリッジしてブリッジインターフェース (br0) を作成します。これにより2つのイーサネットポートを2ポートのスイッチングハブのように利用することができます。

共通インターフェース設定

デフォルトゲートウェイ	<input type="text" value="デフォルトゲートウェイを入力"/>
プライマリ DNS	<input type="text" value="プライマリ DNSを入力"/>
セカンダリ DNS	<input type="text" value="セカンダリ DNSを入力"/>
ブリッジ	<input type="radio"/> 使用する <input checked="" type="radio"/> 使用しない

※ PPPoE 接続時ブリッジインターフェースは使用できません。

<注意>

IP アドレスを変更した場合、即時に反映されますので、WebUI でアクセスしているインターフェースの IP アドレスを変更した場合は「設定に失敗しました」のように表示されることがあります。

WebUI での設定を続けるには、パソコンの設定等を確認し、変更後のアドレスに対して再度接続をしてください。

第 3 章

通信モジュール

3.1 通信モジュール設定

◆ 状態表示

現在使用中の接続状態を表示します。

接続状態は、接続中であれば「接続中」、接続されていなければ「未接続」と表示します。

アンテナレベルは、「最高」、「高」、「中」、「低」で表示します。

取得 IP アドレスには ppp0 に設定された IP アドレスを表示します。

状態表示	
接続状態	接続中
アンテナレベル	中
取得IPアドレス	210.165.60.26

<注意>

通信モジュールを搭載していない MA シリーズの場合、「接続状態」、「アンテナレベル」は、「情報を取得できません」と表示されます。

3.1 通信モジュール設定

◆ 接続設定

➤ 回線接続

通信モジュールの情報を設定します。

入力完了後、「設定」ボタンを押下して設定内容を更新します。

回線接続

回線接続	<input type="radio"/> する <input checked="" type="radio"/> しない
APN	<input type="text" value="APNを入力"/>
ユーザID	<input type="text" value="ユーザIDを入力"/>
パスワード	<input type="text" value="パスワードを入力"/>
接続方式	<input checked="" type="radio"/> 常時接続 <input type="radio"/> オンデマンド接続
認証方式	<input type="radio"/> PAP <input checked="" type="radio"/> CHAP <input type="radio"/> 認証しない
ローカルアドレス	<input type="text" value="ローカルアドレスを入力"/>
リモートアドレス	<input type="text" value="リモートアドレスを入力"/>
デフォルトルート	<input checked="" type="radio"/> 使用する <input type="radio"/> 使用しない
PDPタイプ	<input checked="" type="radio"/> IP <input type="radio"/> PPP
無通信タイムアウト(秒)	<input type="text" value="0"/>
再接続待機時間(秒)	<input type="text" value="5"/>
切断時リセット	<input type="radio"/> 使用する <input checked="" type="radio"/> 使用しない
定期強制切断	<input type="radio"/> 使用する <input checked="" type="radio"/> 使用しない
強制切断時刻	<input type="text" value="03:00"/>
異常時リセット	<input checked="" type="radio"/> 使用する <input type="radio"/> 使用しない
リセット後待ち時間(秒)	<input type="text" value="60"/>

3.1 通信モジュール設定

- 回線接続 : 回線接続「する」「しない」を選択します。
- APN : APN を入力します。
- ユーザ ID : ユーザ ID を入力します。
- パスワード : パスワードを入力します。
- 接続方式 : 「常時接続」「オンデマンド接続」を選択します。
- 認証方式 : 「PAP」「CHAP」「認証しない」いずれかを選択します。
- ローカルアドレス : ローカル側の IP アドレスを手動で設定する場合 IP アドレスを入力します。
- リモートアドレス : リモート側の IP アドレスを手動で設定する場合 IP アドレスを入力します。
- デフォルトルート : デフォルトルートを「使用する」「使用しない」を選択します。
- PDP タイプ : PDP タイプ「IP」、「PPP」を選択します。
- 無通信タイムアウト (秒) : 無通信タイムアウトの時間を 0~300 (秒) で設定します。
- 再接続待機時間 (秒) : 再接続するまでの待機時間を 0~300 (秒) で設定します。
- 切断時リセット : 回線切断時に通信モジュールのリセット「使用する」「使用しない」を選択します。
- 定期強制切断 : 定期強制切断を「使用する」「使用しない」を選択します。
- 強制切断時刻 (時) : 定期強制切断機能を使用する場合、強制切断する時刻をプルダウンより選択します。
- 異常時リセット : 通信モジュールの異常時にリセットを「使用する」「使用しない」を選択します。
- リセット後待ち時間 (秒) : 切断時リセットおよび異常時リセット後の待ち時間を 60~300 (秒) で設定します。

※APN、ユーザ ID、パスワード、認証方式、PDP タイプは、使用する SIM の情報に合わせた設定をします。

3.1 通信モジュール設定

➤ CRG 接続

KDDI が提供する「クローズド リモート ゲートウェイ (CRG)」を利用するための設定を行います。

入力完了後、「設定」ボタンを押下して設定内容を更新します。

CRG 接続は KDDI モジュールを搭載した製品のみ表示されます。

CRG 接続	
CRG 接続	<input checked="" type="radio"/> する <input type="radio"/> しない
ドメイン	<input type="text" value="ドメインを入力"/>
ユーザID	<input type="text" value="ユーザIDを入力"/>
パスワード	<input type="text" value="パスワードを入力"/>
接続方式	<input type="radio"/> 常時接続 <input checked="" type="radio"/> オンデマンド接続
ローカルアドレス	<input type="text" value="ローカルアドレスを入力"/>
リモートアドレス	<input type="text" value="リモートアドレスを入力"/>
デフォルトルート	<input checked="" type="radio"/> 使用する <input type="radio"/> 使用しない
スタティックルート	<input type="text" value="スタティックルートを入力"/>
無通信タイムアウト(秒)	<input type="text" value="30"/>
再接続待機時間(秒)	<input type="text" value="5"/>
切断時リセット	<input type="radio"/> 使用する <input checked="" type="radio"/> 使用しない
定期強制切断	<input type="radio"/> 使用する <input checked="" type="radio"/> 使用しない
強制切断時刻	<input type="text" value="03:00"/>
異常時リセット	<input checked="" type="radio"/> 使用する <input type="radio"/> 使用しない
リセット後待ち時間(秒)	<input type="text" value="60"/>

3.1 通信モジュール設定

- CRG 接続 : CRG 接続「する」「しない」を選択します。
- ドメイン : ドメイン名を入力します。
- ユーザ ID : ユーザ ID を入力します。
- パスワード : パスワードを入力します。
- 接続方式 : 「常時接続」「オンデマンド接続」を選択します。
- ローカルアドレス : ローカル側の IP アドレスを手動で設定する場合 IP アドレスを入力します。
- リモートアドレス : リモート側の IP アドレスを手動で設定する場合 IP アドレスを入力します。
- デフォルトルート : デフォルトルートを「使用する」「使用しない」を選択します。
- スタティックルート : スタティックルートを設定します。カンマ区切りで複数設定可能です。
例 : 172.16.0.0/24, 172.16.1.0/24
- 無通信タイムアウト (秒) : 無通信タイムアウトの時間を 0~300 (秒) で設定します。
- 再接続待機時間 (秒) : 再接続するまでの待機時間を 0~300 (秒) で設定します。
- 切断時リセット : 回線切断時に通信モジュールのリセット「使用する」「使用しない」を選択します。
- 定期強制切断 : 定期強制切断を「使用する」「使用しない」を選択します。
- 強制切断時刻 (時) : 定期強制切断機能を使用する場合、強制切断する時刻をプルダウンより選択します。
- 異常時リセット : 通信モジュールの異常時にリセットを「使用する」「使用しない」を選択します。
- リセット後待ち時間 (秒) : 切断時リセットおよび異常時リセット後の待ち時間を 60~300 (秒) で設定します。

第 4 章

PPPoE

4.1 PPPoE 設定

◆ 状態表示

現在使用中の接続状態を表示します。

接続状態は接続中であれば「接続中」、接続されていなければ「未接続」と表示します。

取得 IP アドレスには ppp1 に設定された IP アドレスを表示します。

状態表示	
接続状態	接続中
取得IPアドレス	220.146.154.106

4.1 PPPoE 設定

◆ 接続設定

PPPoE の接続情報を設定します。

入力完了後、「設定」ボタンを押下して設定を更新します。

接続設定

回線接続 する しない

インターフェース eth0(ETHER0) eth1(ETHER1)

MTU

ユーザID

パスワード

デフォルトルート 使用する 使用しない

- 回線接続 : 回線接続「する」「しない」を選択します。
- インターフェース : 使用するインターフェース「eth0」「eth1」を選択します。
- MTU : MTU を入力します。デフォルト値は 1454 です。
- ユーザ ID : ユーザ ID を入力します。
- パスワード : パスワードを入力します。
- デフォルトルート : デフォルトルートを「使用する」「使用しない」を選択します。

※ ブリッジインターフェース使用時 PPPoE 接続は使用できません。

第 5 章

フィルタ

5.1 フィルタ設定

◆ ゾーン

インターフェースが属するゾーンを設定します。

ゾーンは trusted / internal /external から選択します。

ゾーン

eth0	<input type="text" value="trusted"/>	eth1	<input type="text" value="trusted"/>
br0	<input type="text" value="trusted"/>		
ppp0	<input type="text" value="external"/>	ppp1	<input type="text" value="external"/>

◆ フィルタ

ゾーンを選択して、IP マスカレード、許可するサービス、フィルタルールの設定を行います。

フィルタ

ゾーン

IP マスカレード 使用する 使用しない

サービス 変更

プロトコル	ターゲット	宛先アドレス	宛先 ポート	送元アドレス	編集	削除
tcp	accept		54321		<input type="text" value="✎"/>	<input type="text" value="🗑"/>

+ 追加

設定

5.1 フィルタ設定

デフォルトでは各ゾーンは以下のように設定されています。

ゾーン名	インターフェース	サービス	マスカレード	備考
trusted	eth0 eth1 br0			全ての内向きパケットを受 入 (Accept) ※設定変更不可
internal	なし	dhcpv6-client, ipp-client, mdns, samba- client, ssh	使用しない	選択された内向きのコネク ションのみ Accept (内部ネットワーク用)
external	ppp0 ppp1	ssh	使用する	選択された内向きのコネク ションのみ Accept (IP Masquerade が有効な 外部ネットワーク)

※trusted の設定を変更することはできません。eth0、eth1、br0 にフィルタを設定したい場合はゾ
ーンを internal に変更してフィルタを設定してください。

5.1 フィルタ設定

➤ サービスの変更

「変更」ボタンを押下すると以下のようなサービスの一覧が表示されますので通信を許可したいサービスをチェックして「OK」をクリックします。

サービスの追加

サービス

- AMANDA-CLIENT BACULA
- BACULA-CLIENT DHCP DHCPV6
- DHCPV6-CLIENT DNS FTP
- HIGH-AVAILABILITY HTTP HTTPS
- IMAPS IPP IPP-CLIENT IPSEC
- KERBEROS KPASSWD LDAP
- LDAPS LIBVIRT LIBVIRT-TLS
- MDNS MOUNTD MS-WBT
- MYSQL NFS NTP OPENVPN
- PMCD PMPROXY PMWEBAPI
- PMWEBAPIS POP3S POSTGRESQL
- PROXY-DHCP RADIUS RPC-BIND
- SAMBA SAMBA-CLIENT SMTP
- SSH TELNET TFTP
- TFTP-CLIENT TRANSMISSION-CLIENT
- VNC-SERVER WBEM-HTTPS

OK Cancel

5.1 フィルタ設定

➤ ルール追加

「+追加ボタン」を押すと以下のような画面がプロトコル、ポート等を入力する画面が表示されますので必要な項目を入力して「OK」をクリックします。

新規追加

ゾーン external

プロトコル

ターゲット

宛先アドレス

宛先ポート

送信元アドレス

- プロトコル：「TCP」「UDP」から選択します。
- ターゲット：「accept」「drop」「reject」から選択します。
- 宛先アドレス：宛先アドレス指定する場合に設定します。
- 宛先ポート：宛先ポート番号（1～65535）を設定します。
- 送信元アドレス：送信元アドレスを指定する場合に設定します。

※設定可能な入力項目の組み合わせは以下の通りです。

プロトコル	ターゲット	宛先アドレス	宛先ポート	送信元アドレス
○	○	—	○	—
○	○	○	○	—
○	○	—	○	○
○	○	○	○	○

5.1 フィルタ設定

- ルールの編集
設定済みのルールを編証するには編集ボタンを押下します。設定内容が表示されますので変更した項目を変更して「OK」をクリックします。
- ルールの削除
設定済みのルールを削除するには削除ボタンを押下します。

- ◆ 設定の反映
インターフェースのゾーン割当、サービス変更、ルールの追加等の設定を行った場合、これだけでは設定は反映されていません。最後に「設定」ボタンを押下することで設定が反映されます。

第 6 章

バーチャルサーバ

第6章 バーチャルサーバ

6.1 バーチャルサーバ設定

- ◆ バーチャルサーバ
バーチャルサーバの設定追加、編集、削除を行います。

現在の設定

ゾーン

プロトコル	仮想アドレス	仮想ポート	実アドレス	実ポート	編集	削除
-------	--------	-------	-------	------	----	----

- ゾーン : 「external」「internal」から選択します。
※ゾーンは、「第4章 フィルタ」より設定したゾーンに合わせて選択します。

6.1 バーチャルサーバ設定

➤ バーチャルサーバのルール追加

「ゾーン」を選択した後に、「追加」を押下することにより、新規追加画面が表示されます。
入力が完了したら「OK」を押下し、バーチャルサーバ画面より「設定」を押下することで、設定内容が反映されます。

新規追加

新規追加	
ゾーン	external
プロトコル	<input type="text" value="▼"/>
仮想サーバアドレス	<input type="text" value="アドレスを入力"/>
仮想サーバポート	<input type="text" value="ポートを入力"/>
実サーバアドレス	<input type="text" value="アドレスを入力"/>
実サーバポート	<input type="text" value="ポートを入力"/>

- プロトコル : 「TCP」「UDP」より選択します。
- 仮想サーバアドレス : 公開するサーバの IP アドレスを IPv4 アドレス形式で入力します。
- 仮想サーバポート : 公開する仮想サーバのポート番号を 1~65535 までの値で入力します。
- 実サーバアドレス : 実サーバの IP アドレスを IPv4 アドレス形式で入力します。
- 実サーバポート : 実サーバのポート番号を 1~65535 までの値で入力します。

第6章 バーチャルサーバ

6.1 バーチャルサーバ設定

<注意>

※バーチャルサーバの設定で、入力できる項目の組み合わせは下記になります。

プロトコル	仮想サーバ アドレス	仮想サーバ ポート	実サーバ アドレス	実サーバ ポート
○	○	○	○	○
○	○	○	○	—
○	—	○	○	○
○	—	○	○	—
○	—	○	—	○

6.1 バーチャルサーバ設定

➤ バーチャルサーバのルール編集

追加したルールの編集を行います。

編集するルールの「編集」マークを押下することにより、変更画面が表示されます。

編集したい項目を変更し、「OK」を押下します。バーチャルサーバ画面より「設定」を押下することで、設定内容が反映されます。

変更

変更	
ゾーン	external
プロトコル	TCP ▼
仮想サーバアドレス	10.10.10.1
仮想サーバポート	80
実サーバアドレス	192.168.253.110
実サーバポート	10001

OK

Cancel

- プロトコル : 「TCP」「UDP」より選択します。
- 仮想サーバアドレス : 公開するサーバの IP アドレスを IPv4 アドレス形式で入力します。
- 仮想サーバポート : 公開する仮想サーバのポート番号を 1~65535 までの値で入力します。
- 実サーバアドレス : 実サーバの IP アドレスを IPv4 アドレス形式で入力します。
- 実サーバポート : 実サーバのポート番号を 1~65535 までの値で入力します。

6.1 バーチャルサーバ設定

- バーチャルサーバのルール削除
追加したルールの削除を行います。
削除するルールの「削除」マークを押下することにより、削除画面が表示されます。
削除するには「OK」を押下します。バーチャルサーバ画面より「設定」を押下することで、設定内容が削除されます。

削除

削除	
ゾーン	external
プロトコル	TCP <input type="button" value="v"/>
仮想サーバアドレス	10.10.10.1
仮想サーバポート	80
実サーバアドレス	192.168.253.110
実サーバポート	10001

OK

Cancel

第7章

シリアル変換

7.1 シリアル変換設定

◆ シリアル変換設定

シリアルと TCP または UDP のプロトコル変換機能を利用する場合に設定します。

➤ シリアルポート (Port 0/tty01)

シリアルポート (Port 0/tty01) を利用する場合に設定します。

シリアルポート (Port 0/tty01)	
シリアル変換	<input type="radio"/> 使用する <input checked="" type="radio"/> 使用しない
動作モード	<input checked="" type="radio"/> サーバ <input type="radio"/> クライアント
プロトコル	<input checked="" type="radio"/> TCP <input type="radio"/> UDP
ローカルポート	<input type="text" value="54321"/>
接続先アドレス	<input type="text" value="接続先アドレスを入力"/>
接続先ポート	<input type="text" value="接続先ポートを入力"/>
ボーレート	<input type="text" value="115200"/>
データ長	<input type="radio"/> 7ビット <input checked="" type="radio"/> 8ビット
パリティ	<input type="radio"/> なし <input type="radio"/> 偶数 <input type="radio"/> 奇数
ストップビット	<input checked="" type="radio"/> 1ビット <input type="radio"/> 2ビット
ハードウェアフロー制御	<input checked="" type="radio"/> する <input type="radio"/> しない
最小読み込みデータ(バイト)	<input type="text" value="10"/>
データ待ち受け時間(x0.1秒)	<input type="text" value="1"/>

- シリアル変換：シリアル変換機能を使用する場合は「使用する」を選択します。
- プロトコル：「TCP」「UDP」のどちらを利用するかを選択します。

7.1 シリアル変換設定

- ローカルポート：
サーバ動作時の待ち受けポート（1～65535）、UDP クライアント時の送信元ポート（1～65535）を意味します。（TCP クライアント時はこの設定は無視されます。）
※使用中ポートは設定できません。
- 接続先アドレス：
クライアント動作時の接続先アドレスを設定します。（サーバ動作時はこの設定は無視されます。）
- 接続先ポート：
クライアント動作時の接続先ポート（1～65535）を設定します。（サーバ動作時はこの設定は無視されます。）
- 最小読み込みデータ（バイト）：
シリアルデータを読み込む際の最小データサイズを設定します。
- データ待ち受け時間（x0.1 秒）：
最小読み込みデータに満たない場合、ここで設定した時間データを受信しなければデータを読み込みます。

※ボーレート/データ長/パリティ/ストップビット/ハードウェアフロー制御は接続するシリアル端末の仕様に合わせて設定します。

- コンソールポート (CONSOLE/tty00)
コンソールポート (CONSOLE/tty00) を利用する場合に設定します。コンソールポートをシリアル変換機能で利用するには事前にブートローダより Linux コンソール出力を止めるための設定を行う必要があります。設定手順については以下 URL をご参照ください。

「Linux コンソール出力を出力しない」

http://wiki.centurysys.jp/doku.php?id=mae3xx_tips:console_internal:start

※設定項目は「シリアルポート (Port 0/tty01)」と同様です。

第 8 章

DCHP

8.1 DHCP 設定

◆ DHCP 設定

DHCP サーバ機能を設定します。

リースアドレスには、DHCP クライアントに割り当てる IP アドレスの範囲を指定します。

DHCP サーバ機能を行わないようにするには、DHCP 「使用しない」 を選択します。

DHCP設定

DHCP 使用する 使用しない

リースアドレス —

- DHCP : 「使用する」「使用しない」 から選択します。
- リースアドレス :
DHCP クライアントに割り当てる IP アドレスの範囲を IPv4 アドレス形式で入力します。

第 9 章

NTP

9.1 NTP 設定

◆ NTP 設定

NTP による時刻同期の設定を行います。

デフォルトでは時刻同期を行わないように設定されています。

NTP デモンによる常時時刻同期を行う場合は、NTP 「使用する」を選択します。

1 日 1 回定時に時刻同期を行う場合は、定期時刻合わせ 「使用する」を選択します。

時刻動機を行わない場合、NTP 「使用しない」定期時刻合わせ 「使用しない」を選択します。

入力完了後、「設定」 ボタンを押下して設定を更新します。

NTP設定

NTP 使用する 使用しない

定期時刻合わせ 使用する 使用しない

➤ NTP 設定(NTP 「使用する」)

プライマリ NTP、セカンダリ NTP は IP アドレスまたは FQDN で設定可能です

NTP設定

NTP 使用する 使用しない

プライマリ NTP

セカンダリ NTP

9.1 NTP 設定

- NTP 設定(定期時刻合わせ「使用する」)
プライマリ NTP、セカンダリ NTP は IP アドレスまたは FQDN で設定可能です
時刻合わせを実施する時間を選択します。

NTP設定

定期時刻合わせ	<input checked="" type="radio"/> 使用する <input type="radio"/> 使用しない
プライマリ NTP	<input type="text" value="プライマリ NTPを入力"/>
セカンダリ NTP	<input type="text" value="セカンダリ NTPを入力"/>
時刻合わせ時間	<input type="text" value="04:00"/>

第 10 章

WarpLink

10.1 WarpLink 設定

◆ WarpLink DDNS 設定

WarpLink DDNS サービスに対応した機能です。

通信モジュール接続時に、WarpLink DDNS サーバに対して登録を行います。

WarpLink DDNS サービスを使用するには、別途契約が必要です。

※WarpLink は、センチュリー・システムズ株式会社の登録商標です。

➤ 接続設定

WarpLink DDNS のユーザ ID とパスワードを設定します。

WarpLink DDNS設定

接続設定

WarpLink DDNS 使用する 使用しない

ユーザID

パスワード

設定

- WarpLink DDNS : WarpLink DDNS サービスの「使用する」「使用しない」を選択します。
- ユーザ ID : WarpLink DDNS サービスを契約した際のユーザ ID を入力します。
- パスワード : WarpLink DDNS サービスを契約した際のパスワードを入力します。

第 11 章

シスログ

第11章 シスログ

11.1 シスログ表示

◆ ログ表示

WebUI 上でログ (/var/log/syslog) を表示して確認することができます。

◆ ログ取得

「取得」によりログファイル (/var/log/syslog) をダウンロードすることができます。

システムログ

ログ表示

```
Oct 20 14:37:49 plum kernel: [ 0.000000] Initializing cgroup subsys cpu
Oct 20 14:37:49 plum kernel: [ 0.000000] Initializing cgroup subsys cpuacct
Oct 20 14:37:49 plum kernel: [ 0.000000] Linux version 3.14.22+ (root@ubi
Oct 20 14:37:49 plum kernel: [ 0.000000] CPU: ARMv7 Processor [413fc08:
Oct 20 14:37:49 plum kernel: [ 0.000000] CPU: PIPT / VIPT nonaliasing da
Oct 20 14:37:49 plum kernel: [ 0.000000] Machine model: Century Systems
Oct 20 14:37:49 plum kernel: [ 0.000000] cma: CMA: reserved 16 MiB at 9e
Oct 20 14:37:49 plum kernel: [ 0.000000] Memory policy: Data cache writel
Oct 20 14:37:49 plum kernel: [ 0.000000] On node 0 totalpages: 130816
Oct 20 14:37:49 plum kernel: [ 0.000000] free_area_init_node: node 0, pgd
Oct 20 14:37:49 plum kernel: [ 0.000000] Normal zone: 1024 pages used
Oct 20 14:37:49 plum kernel: [ 0.000000] Normal zone: 0 pages reserved
Oct 20 14:37:49 plum kernel: [ 0.000000] Normal zone: 130816 pages, LI
Oct 20 14:37:49 plum kernel: [ 0.000000] CPU: All CPU(s) started in SVC n
Oct 20 14:37:49 plum kernel: [ 0.000000] AM335X ES2.1 (neon )
Oct 20 14:37:49 plum kernel: [ 0.000000] pcpu-alloc: s0 r0 d32768 u32768
Oct 20 14:37:49 plum kernel: [ 0.000000] pcpu-alloc: [0] 0
Oct 20 14:37:49 plum kernel: [ 0.000000] Built 1 zonelists in Zone order, m
Oct 20 14:37:49 plum kernel: [ 0.000000] Kernel command line: ubi.mtd=0
Oct 20 14:37:49 plum kernel: [ 0.000000] PID hash table entries: 2048 (ord
Oct 20 14:37:49 plum kernel: [ 0.000000] Dentry cache hash table entries:
```

ログ取得

ログファイル取得

第 12 章

ファームアップデート

第12章 ファームアップデート

12.1 ファームアップデート

◆ ファームバージョン

現在使用中のファームウェアのバージョンを表示します。

ファームバージョン	
現在のバージョン	MA-E3xx firmware version 2.4.3 (Thu Dec 25 13:22:05 JST 2014)

◆ ファームアップデート

本装置のファームウェアの更新を行います。

➤ ファームウェアアップロード

パソコン上のファームウェアイメージファイルを、WebUI を経由して本装置に送信します。

「設定」ボタンを押下して更新するファームウェアを本装置にアップロードします。

ファームアップデート	
ファームウェア	<input type="button" value="ファイルを選択"/> 選択されていません
<input type="button" value="設定"/>	

➤ ファームウェアアップロード完了

ファームウェアアップロードの進行状況を表示します。

完了後には、「完了」と表示されますので、「閉じる」ボタンを押してください。

完了

ファイルをアップロードしています



閉じる

第12章 ファームアップデート

12.1 ファームアップデート

➤ ファームウェアアップデート

ファームウェアの送信に成功すると、ファイルサイズとファイルハッシュ値が表示されます。

ファイルハッシュ値が正しければ、「設定」を押下し、ファームウェアのアップデートを実行します。

ファームアップデート	
ファイル名	mae3xx_trusty_v2_4_3.img
ファイルサイズ	76220331
ファイルハッシュ値	634c89930c26370c0092a7f5baa6513a4e5 24405
<input type="button" value="設定"/>	

「設定」ボタンを押すと確認ダイアログが表示されます。

問題がなければ「OK」ボタンを押してファームアップを開始してください。




第12章 ファームアップデート

12.1 ファームアップデート

- ファームウェアアップデート完了
ファームウェアアップデートの進行状況を表示します。
ファームウェアアップデート完了後には、「ファームアップが完了しました」と表示されますので、閉じるボタンを押してください。

完了

ファームアップが完了しました



閉じる

- 本装置の再起動
「停止・再起動」画面より、本装置の再起動を実施します。
再起動後、ファームウェアが更新されていることを確認します。

第 13 章

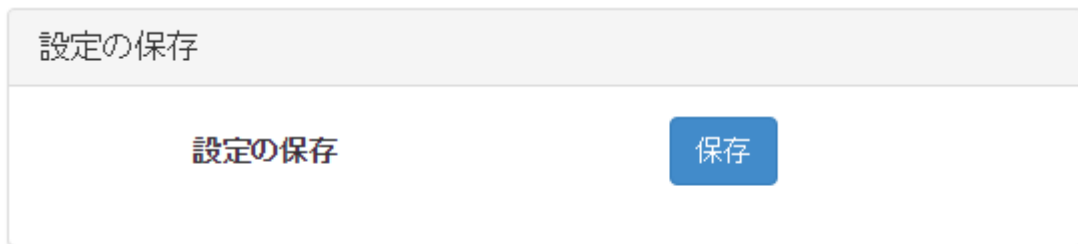
本装置設定情報

13.1 設定の保存・復帰・初期化

◆ 設定の保存

WebUI で変更した設定内容をファイルとしてパソコンにダウンロードします。

「保存」ボタン押下でダウンロードを開始します。



◆ 設定の復帰

「設定の保存」でダウンロードした設定ファイルを本装置にアップロードして、設定を復元します。

「ファイルを選択」ボタンでアップロードする設定ファイル選択し、「復帰」ボタンを押下でファイルのアップロードを開始します。

※設定ファイルアップロード後、設定を反映させるには再起動を行ってください。



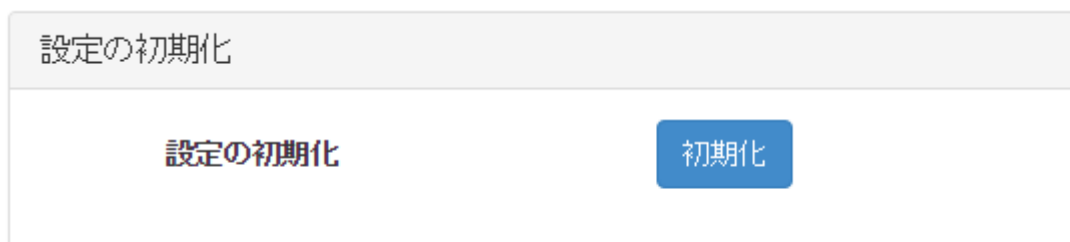
13.1 設定の保存・復帰・初期化

◆ 設定の初期化

WebUI で変更した設定を消去し設定データをデフォルト値に戻します。

「初期化」ボタンで設定データの消去を行います。

※設定の初期化を完了するには再起動が必要です。



第 14 章

第 14 章 停止・再起動

14.1 停止・再起動設定

◆ 即時停止・再起動

「停止」で本装置をシャットダウンします。

「再起動」で本装置の再起動を行います。

※「停止」または「再起動」により行われるシャットダウン処理により設定情報が保存されます。

即時停止・再起動	
本装置停止	<input type="button" value="停止"/>
本装置再起動	<input type="button" value="再起動"/>

◆ 定期再起動

1日に1回の定期再起動を行うかを設定します。

定期再起動「使用する」を選択し、再起動時間（0:00～23:00 ※1時間単位）を設定すると設定した時間に再起動を行います。

定期再起動	
定期再起動	<input type="radio"/> 使用する <input checked="" type="radio"/> 使用しない
再起動時間	<input type="text" value="03:00"/>
<input type="button" value="設定"/>	

第 15 章

日付・時刻

15.1 日付・時刻設定

◆ 日付・時刻設定

日付・時刻設定では、システム時刻の変更を行います。

「日付」の年、月、日および、「時刻」の時、分、秒の項目入力が完了した後「設定」ボタンを押下して変更内容を更新させます。

日付・時刻設定

年	<input type="text" value="2014"/>	月	<input type="text" value="10"/>	日	<input type="text" value="20"/>
時	<input type="text" value="15"/>	分	<input type="text" value="7"/>	秒	<input type="text" value="43"/>

- 年 : 2000~2036 までの範囲で設定します。
- 月 : 1~12 までの範囲で設定します。
- 日 : 1~31 までの範囲で設定します。
- 時 : 0~23 までの範囲で設定します。
- 分 : 0~59 までの範囲で設定します。
- 秒 : 0~59 までの範囲で設定します。

第 16 章

本装置設定

16.1 本装置設定

◆ パスワード変更

WebUI のログインパスワードを変更します。(半角英数記号 16 文字 ※使用可能記号は“” ¥以外)
ユーザは「admin」固定で変更できません。

◆ WebUI アクセスポート変更

WebUI のポート番号を変更したい場合にポート番号 (1~65535) を指定します。設定は即時反映されますので、WebUI での設定を続けるには変更後のポートに再接続してください。
※使用中ポートは設定できません。

本装置設定

パスワード変更

更新パスワード

設定

WebUIアクセスポート変更

更新ポート

設定

FutureNet MA-E300 シリーズ ウェブユーザインターフェース操作マニュアル Ver.1.2.0

2015 年 4 月版

発行 センチュリー・システムズ株式会社

Copyright© 2015 Century Systems Co., Ltd. All rights reserved.
